

# すくパオほけんだより



プールや水遊びが楽しい夏ですが、体力の消耗の激しい時季でもあります。夏は、どんな感染症がはやるのかを知ったうえで十分に気をつけていきましょう。

## 気をつけよう！ 夏の感染症

### ヘルパンギーナ

こんな  
病気

コクサッキーウイルスに飛沫感染することで発症。39℃前後の高熱、のどの痛みが特徴。のどに水ぼうや潰瘍（かいよう）ができて痛みがひどく、不機嫌になって食欲が落ちたり、乳児の場合はミルクが飲めなくなったりする。



対応

口の中が痛むので、熱いものなどの刺激の強いものは避け、薄味でのど越しのよいやわらかいものを与えましょう。水分が取れないほどのどが痛むようであれば受診をしましょう。



### 咽頭結膜熱（プール熱）

こんな  
病気

アデノウイルスによる飛沫感染。目やにや便からうつることも。プールの水を介して感染することがあるので、「プール熱」と呼ばれる。39℃以上の発熱とのどの痛みがあり、目のかゆみ、痛み、充血、涙など、結膜炎のような症状が出るのが特徴。



対応

感染したら、症状がなくなってから2日経過するまでは登園停止。自宅で安静に過ごすようにしましょう。



### 手足口病

こんな  
病気

エンテロウイルスなどによる飛沫感染。口の中に小さな口内炎ができて、手のひらや足の裏に、水ぼうや赤い発しんができる。口の痛みから食欲が落ちる。熱が出ることも多い。症状が重い場合は、後から指先の爪が剥がれ落ちることもある。



対応

まれに髄膜炎などの合併症を起こすことがあるので、頭痛やおう吐を伴う発熱が3日以上続くときは、すぐに受診をしましょう。

